

# WA!



No. 3

来たる10月14日(土)報恩講子ども大会開催!



## 二本目の矢

昔の人は現代人ほど、夏の暑さに苦しむことはなかったことでしょう。「暑いねえ……そうだねえ」「どうにもならないねえ……そうだねえ」と受け入れていたと思います。私たちはエアコンを知っています。暑さ寒さから逃げる術を知っているのです。だから、逃げられない瞬間が耐えられない。「暑い」に加えて「なんとかならんのか」とくる。

お釈迦さまの言葉に「私の教えを学んだものは、第二の矢を受けることがない」(雑阿含経第十七『箭経』)とあります。私たちは、苦しみや悲しみに出会ったとき、どうしても二本の矢を受けてしまうようです。たとえば友人に傷つく言葉を浴びせられた。グサッと胸に刺さり、苦しみます。「ひどいことを言うなあ」。これが一本目の矢です。でもそれだけで終わりません。続いて二本目の矢が刺さります。「ぜったいに許さん」と相手を憎む心です。憎んで相手が苦しむかといえば、そんなことはありません。腹を立てている自分が苦しいだけです。しかもこの矢は毒がじわじわ出てきます。

わが家には幼い兄弟がいますが、二人を見ていると、子どもはこの二本目の矢を受けないのだなと思います。大喧嘩して、大泣きしても、次の瞬間には笑っている。まだ涙で目も濡れているのに、仲良く遊んでいる。いいなあと思います。その点、大人はダメ。いつまでも過ぎ去ったことに縛られてしまいます。「死んでも許さん」などと言ったりして、お墓の中まで持っていこうとする。しぶとい毒です。この二本目の矢をいかに防ぐかが問題だと、お釈迦さまは教えてくださいました。

## 総会・前期指導者学習会



徳澤紀真先生

平成十八年六月八日、広島別院にて、総会・前期指導者学習会が開催されました。

まず、富水真秀教務所長より、少子高齢化にともなう、子どもの寺院離れや今後の少年教化活動の問題点を挙げられ、「人口の減少による過疎化も、寺院にとっ

ては深刻な問題であり、これからの世に親鸞聖人のみ教えをいかにして伝えていくのか、私たちは真剣に考えなければならぬ」とお話をいただきました。

続いての前期指導者学習会では、徳澤紀真（佐伯東組蓮教寺）先生より、「日曜学校（子ども会）のお勤めについて」ご講義いただきました。子ども会などで、広くお勤めしている「らいはいのうた」をはじめ、「正信偈」、献灯・献花・献香の作法などを中心とした講義でした。日頃当たり前のように勤めさせていたいただいている「らいはいのうた」ですが、実際に講義を受けると、正確にお勤めできていない自分に気付かされました。

「らいはいのうた」は一分間に八十拍です。思ったより速いテンポですが、この速めのテンポによって、お経に明るさ

が出てくるそうです。お経というと、一般的には暗いイメージを持たれています。しかし、テンポよくお勤めすることによって、お勤めにも明るく楽しいイメージをつけることが大切だということです。

間違いやすいところが、何箇所か有ります。

●「み徳すぐれて ならびなく」は「みーとくすぐれて ならびなく」

●「虚空のごと 澄みわたり」は「おそろのーごと すみわたり」

●「菩薩・魔性もほめたとう」は「ほーさつ ましよーもほめたとお」

●「まほろしの身と 説きたもう」は「まほろしのーみと ときたもお」

となります。

また、「礼讃文」は読まなくてはならないのか、「きん」はどこをたたくのが一番きれいな音が出るかなど、身近な部分の質問にもお答えいただきました。

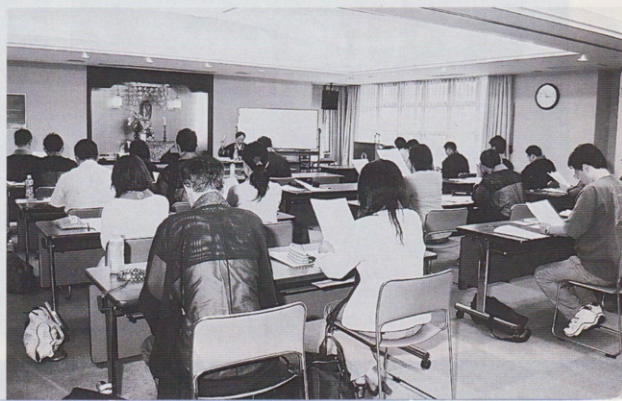
「きん」は音のお荘嚴のひとつである。忙しいときでも、ゆっくりと打ち、丁寧にお勤めさせていただくことが大切」と



もおっしゃっていました。

私達は、作法やお勤めがついつい我流になってしまい、その我流が当たり前になってしまいます。子どもたちは私達僧侶の動作を真によく見ていて、そのままをまねします。間違いのまま、まねをするのです。作法の一つひとつには意味やきまりがあるので、その心を忘れないためにも、こういった研修は大切にしていきたいと感じました。

日曜学校、サマースクール、人形劇活動、本山参拝旅行などを中心にして、子どもたちの明るい声が聞こえるお寺も沢山あります。楽しく魅力的なところには



人は集まるものです。十七年度にひらかれた、広島別院での「子ども報恩講」にも、三三五名の子どもたちが集まってくれました。嘆くよりもまず行動が必要なのかもしれません。

前年度一年間を振り返ると、少年連盟でも「つうしん」が新しく「WA!」と変わり、指導者や子ども達の、中央行事への参加もありました。各寺院も転換期をむかえながら、精力的に活動されています。大切なのは、まずは私自身が研鑽し、即実践していかななくてはならないことです。

## 中四国ブロック少年連盟 指導者研修会

七月四・五日の二日間、福山市にて「中四国ブロック少年連盟指導者学習会」が、備後教区担当で開催され、七十余名の参加者がありました。研修の一日目は大谷派の宗務員であり、シンガーソングライターの木君代さんによるお話とギターを使つての弾き語り、そして二日目は「子ども会でも出来る手品指導」ということで、地元福山在住のマジシャン・ゼンジー世村氏による手品の美演と指導が行なわれました。

君代さんのお話は、お寺の生れではない自分が何故僧侶となつたのか。そして今どんな思いを持って活動をしているのかというもので、その中には色々な「人」や「言葉」との出会いがあり、その様々な出会いが今の自分に大きな影響を与えている、そしてその出遇いや命の不思議さを表現した歌は参加者一同の心を惹き付けました。君代さんの話の中で、特に印象に残つたのは、小学生時代に預けられていたお寺での話です。ある日、そのお寺の住職が鳩にエサをやりながらつぶやいた一言……「鳩もセミ

も君代ちゃんもみんな同じ命なんだよ……」という言葉。それは今まで誰からも聞かされることのなかつた言葉で、それまで自分が持っていた価値観が転換されるような思いがしたそうです。そして、お坊さんなら「いのちとは何か」という問いに対して答えを与えてくれるのではないかと、その時からお寺という場に徐々に魅力を感じていったということでした。

私たちは日ごろ日曜学校という場所を通して子ども達と接しています。しかし自分自身、「今月は何をしようか」と、プログラムの事ばかりに頭を悩ませ、現



鈴木君代さん

子どもがお寺に足を運んでくれて、子どもがそこにいるという事を、何か当たり前前の事のように感じているような気がします。しかし、今子どもと出遇えているという事が実はとても大切な事で、その出遇いの中にこそ、子ども達と一緒に「いのち」とは何かという事を見つめ、そして考えていくことができる可能性があるのでと思います。命を損なうような事件が起きてから、本人が事の重大さに気付くというような現代になってしまったのは、「いのちとは何か、死とは何か」という事を私たちが伝えてこれなかったからではないかという君代さんの言葉、そして金子みすゞさんの「わたしと小鳥とすずと」の詩を自身が作曲した歌を通して「みんな違ってみんないい」と力強くも優しく歌うその姿に、私たちが今後日曜学校を行っていく上での大きな指針を与えられたような気がしました。

また、二日目のマジック指導は、参加者が世村先生の指導とともに、実際に手品道具を使つて行なわれました。今回私たちが取り組んだのは、タネを仕込んだ親指に似せたサックを自分の親指にかぶせ、それを使つて何もないところからあたたかも物を取り出すというような手品でした。

親指のサックをつけている事が相手にバレないかなと思いましたが、こちらが堂々としていれば意外と相手には分からず、逆にこちらがそのタネを気にしながら行つとバレてしまうということで、手品は人間の目の「不確かさ」や「思い込み」をうまく利用しているということに面白さを感じました。今まで見るだけのものと思つていた手品の見方が変わりました。

日曜学校活動を行っていく上での素材は意外と身近なところにあるもので、素材を発見しようとする指導者側の熱意と、またそれを活かしていく努力こそが大切な事であるのだと思います。この度の研修を通してそのような事を感じました。



ゼンジー世村先生



## 即効、レクの素！ ～サークルゲーム編(その2)

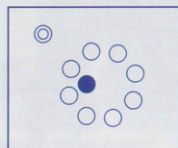
### 【ゲーム名】「ゴロピカドン！」

【準備物】 適当な大きさのゴムボール

【隊形】 全体で円を作り、鬼が外に出る。

### 【ルール】

1. まず鬼が円の外に出て、鬼以外のメンバーは円を作り座る。  
このとき、円に座っているメンバーの中、誰でもよいのでボールを1つ持つ。鬼は手で目を隠して円の外に座る。
2. 鬼の掛け声によってボールを回していく。そして、鬼の掛け声の変化により、ボールの回り方も変化させる。  
「ゴロゴロゴロゴロ・・・」→右の人に手渡しで回す。  
「ピカピカピカピカ・・・」→左の人に手渡しで回す。  
「ザーザーザー・・・」→円の中の誰でもよいのでボールを手渡しする。
3. 鬼の色々な掛け声によりボールがひとしきり回ったところで鬼は「ドン！」と言う。  
その時にボールを持っていた人が次の鬼となり、同じルールで続けていく。



○メンバー  
●鬼  
●ボール

### 💡 hint!

- ※始めの2、3回の鬼はリーダーが行うようにしてください。まず「ゴロゴロ」の掛け声だけで始めて、次の回でボールを左に回す「ピカピカ…」の掛け声を加えていくというように、段階を踏んでいくとよりルールが徹底します。
- ※掛け声を頻繁に変えようと収集がつかなくなるので、1回の掛け声を10秒以上を目安にして行うとボールが落ち着いて回ります。
- ※人数が多い場合には5～7人ずつの円になり、鬼はずっとリーダーが行います。最初にボールが少し回ったところでいきなり「ドン！」というように、リーダーの掛け声の変化でゲームを盛り上げてください！
- ※「ザーザー」の掛け声の時に絶対にボールを投げないということを徹底してください。

